



2019年12月

今後12カ月のグローバル経済
および投資環境の見通し



DWSの見解

マクロ経済

- この数カ月間、景気先行指標は安定的。
- 米中貿易摩擦は一時的な休戦状態が続くことに期待する。
- 貿易摩擦同様、ブレグジットについても不確実性が繰り返し存在しているが、エコノミストはそれを軽視している。

株式

- 株式については全体的に前向きの姿勢を維持。
- 2020年以降、ほとんどの地域で1株当たり利益の伸びが4～7%になると見込む。
- ただし、2020年の米国大統領選などのイベントに注視する必要がある。

債券

- 2020年には米連邦準備制度理事会(FRB)も欧州中央銀行(ECB)も、利下げや利上げをしないと予測。
- 欧州社債および新興国債券は良好なリスク・リターン特性を有する。
- 為替の動きもほとんどないと見込む。永続的なユーロの復活を望むのは時期尚早。

オルタナティブ

- 10年前の住宅バブル崩壊後、集合住宅需要は底堅い。
- 集合住宅の投資家は多大な時間とリソースを費やして、どのような機能やコミュニティの利便性が既存テナントや見込みテナントに望ましいものであるか判断している。
- このような要因が集合住宅市場の長期的なパフォーマンス予測に役立つ。

マルチアセット

- 中央銀行が再び金融緩和策を取ったために、債券利回りは2019年には過去最低水準を更新した。
- 2020年には経済成長が鈍化すると考えるが、景気後退は見込んでいない。
- 全般的には再び投資に良好な年となりそうな根拠はあるが、バリュエーションとリスクの水準を考慮すると、地域・スタイル・セクターをバランスよく組み合わせることを現時点では選好する。

ESG(環境・社会・ガバナンス)

- 地球の75%は水で覆われている。しかし、淡水はわずか2.5%であり、地上の生活とエコシステムを支えるために使えるのは1%以下である。
- 今日、世界の経済成長の25%は慢性的な水不足に直面している国によるものである。2050年までに、この割合は45%まで増加すると予測されている。
- DWSが開発した水リスクスコアによると、消費財、公益事業、エネルギー、鉱業が最もリスクが高いセクターである。

2020年は良い年に、しかしその後10年は うまくいかないかもしれない

2020年の投資見通しは悪くありません。しかし、次の10年は今までの10年のようにはいかないでしょう。

“景気や市場が落ち込むとは見込んでいませんが、そのような可能性を全く排除することはできません。ですから、慎重ながらも楽観的な姿勢で新しい年を迎えたいと考えます。”

ステファン・クロイツカンブ
チーフ・インベストメント・オフィサー



新年の始まりは2020年代の始まりでもあります。2020年代は新たな不確実さと課題をもたらすことでしょう。確実なことと言えば、テクノロジー、経済、そしておそらく政治についても、変化のスピードが早まることです。テクノロジーは、働き方を変えるだけでなく、追加的に多くの規制が変更されるという点からも、われわれの業界の変化を促す大きな要因となると考えています。当社の中核事業である、責任ある資産運用ビジネスは、低インフレ、量的緩和、低い債券利回り、資産価格の上昇といった要因で2010年代には厳しい環境に置かれました。今後10年で世界中の国々と様々な地域にどのような成長の可能性があるのか、金利、インフレ、市場がどこに向かうのか、そして世界が社会政治的にどこに向かっているのかといった事柄について、我々は自分自身に問いかける必要があります。

不確実性は高く、過去10年間に金融資産に恩恵をもたらした状況が今後も続くことはないだろうという予測を我々は明確に打ち出したいと考えています。これからの10年間は、過去10年のような良いリターンは得られないだろうと予測しています。

ただし、「CIOビュー クォーターリー」は今後1～2年のみに着目しています。「のみ」という言葉を使ったものの、この比較的短期間の予測でも簡単だと言うつもりはありません。

この1年は投資家にとって長い間の最高の年になりそうです。この点については予測していたことではありません。ただし、ブレグジット、米中貿易摩擦、米国企業収益がどのように展開するかといった我々の懸念は正しいものでした。実際、企業収益は予想よりも悪化しつつあるようです。年末までに2019年の前年比成長率がゼロとなる可能性もあり、2020年の企業収益予測のコンセンサスは今もってさらに下方修正されています。よって、S&P500が年初来25%近く上昇¹したのは、次に挙げる3つの特別な理由があると言えます：

1. 8月の逆イールド(2年物および10年物米国債の間で)によって起こった景気後退に対する懸念は、秋には落ち着きをみせました。
2. 政治に対する不安も年末に向けて若干緩和されつつあります。無秩序なブレグジットのリスクが後退し、米中貿易摩擦が少なくともこれ以上悪化しない様相を見せているためです。
3. しかし、最も決定的な要因は、米連邦準備制度理事会(FRB)が驚くほど緩和的になったことではないでしょうか。FRBは追加利上げを控えただけに留まらず、利下げにまで踏み切ったのです。また、3月には9月以降にさらなる資産縮小をしないことを発表し、9月に起きたレポ市場の急騰を受けて、新たに何十億米ドルという資金供給にまで踏み切りました。欧州中央銀行(ECB)など他の中央銀行もいっそうの緩和政策を取りました。

¹ 2019年11月19日時点

ですから、今年は疑念が的中したと皮肉な人もいることでしょう。つまり、債務過多の世界はこれ以上高い金利を取ることができず、中央銀行が再び存在感を示し、世界経済を救い出すことを待ち望んでおり、喜んでそれを行うだろう、さもないと資本市場は動揺し始めるであろう。強い米ドルと非常に低い米国債利回りを考えると、他の皮肉も当たっているように見えます。米国は自国の財力を超えて生き永らえられ、好きなだけ債務を積み上げることができる、という皮肉です。つまり、米国は債務を支払うのに必要なお金をいつでも印刷できるため、債務を払いきれなくても問題ない、ということです。このような議論は短期的には有効かもしれませんが、長期的には疑問符がつくものです。米政権が現在のような保護主義的な政策を取り多国間協定から決別しようとしていることを考えると、米ドルと米国債が無敵だという信頼もいっそう疑わしく感じられます。しかし、外交政策の劣化や財政と貿易の双子の赤字をうけてドルが弱くなる時期を予想することは、何年にもわたる金融緩和政策によってインフレが起きる時期を予測するのと同じくらい難しい芸当です。どちらも実際に起きるまでには相当の時間がかかりそうですから、歴史がその正しさを証明するまでは、どちらの予測も意味のないことに映るでしょう。

我々は2020年に米ドルの下落もインフレ率の急騰も予測していません。むしろ、中央銀行は同じ音楽を奏で続け、投資家は金融緩和というワルツを踊り続けることになるでしょう。しかし音楽のテンポは今までほど早くないかもしれません。我々は、市場は2019年ほどよくならないと見ています。つまるところ、投資家はあまりにも長い間同じ曲を踊り続けてきたため、食傷気味になっているのです。

投資家に踊り続けてもらうためには、金融緩和の後に世界経済の成長という次の曲が必要です。我々は、2020年の経済成長を2019年と同じレベルの3.1%と予測しています。しかし、今後12カ月のリターンについては一桁台を見込んでおり、これはちょうど1年前に2019年について予測したのと同様のレベルです。しかしそれ以来、企業収益が横ばいであったにもかかわらず株価は二桁の伸びを示し、株の割高感が高まっています。また、中央銀行が2020年にも今までと同じポジティブ・サプライズを打ち出すという可能性は低いでしょう。

一方で政治的な様相は変化しつつあり、この変化はおそらくあまり良い方向ではありません。米中の貿易摩擦はこれ以上の悪化はないにしても、真の意味での前進はありませんでした。香港における抗議活動の激化も複雑さに拍車をかけています。また英国の選挙がどちらに傾いても、ブレグジットとその結果は2020年を通して話題として残ります。大西洋兩岸のこのような不確実さの結果として、企業が投資計画を先延ばしにする傾向が強まることとなります。米国が財政パッケージを導入して穴埋めするとは考えられません。ドイツがこの投資ギャップを埋めるということももちろん考えられませんが、全体的な経済成長が6%以下に落ち込むと予測されている中国もその役割を果たさないでしょう。

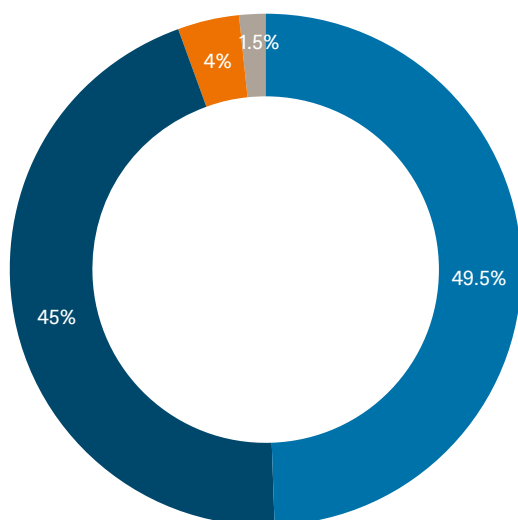
アジアが引き続き世界の成長エンジンであり、株式と債券の双方について当社が来年も選好する地域の一つとなります。債券利回りを求めて投資家は再び新興国債券と社債に深くのめり込むこととなります。ユーロ圏においては、価格に対して鈍感な買い手であるECBが市場に戻り、絶えず需要を押し上げるでしょう。

リスクが引き続き高い水準に留まることから、我々は2020年のポートフォリオに長期の米国債や金を使うなどのヘッジを取り入れます。個別ポートフォリオの戦略的アセットアロケーションに関わらず、我々は2020年の投資を環境・社会・ガバナンス(ESG)基準にいっそう沿ったものにしていきます。ESGに対して我々は早い段階から注目してきましたが、2019年には環境問題が世界のニュースの中心となる中でこのような我々の姿勢が報われることとなりました。リターンを「どのように」生み出すかということを無視することはできません。今後も「どのように」にという点に留意してESGの取り組みを拡大してまいります。

我々の12カ月予測を数字でご覧ください。

欧州の投資家向けアセットアロケーション

現状のトレンドから利益を得、機会を求め、リスクに注視する。

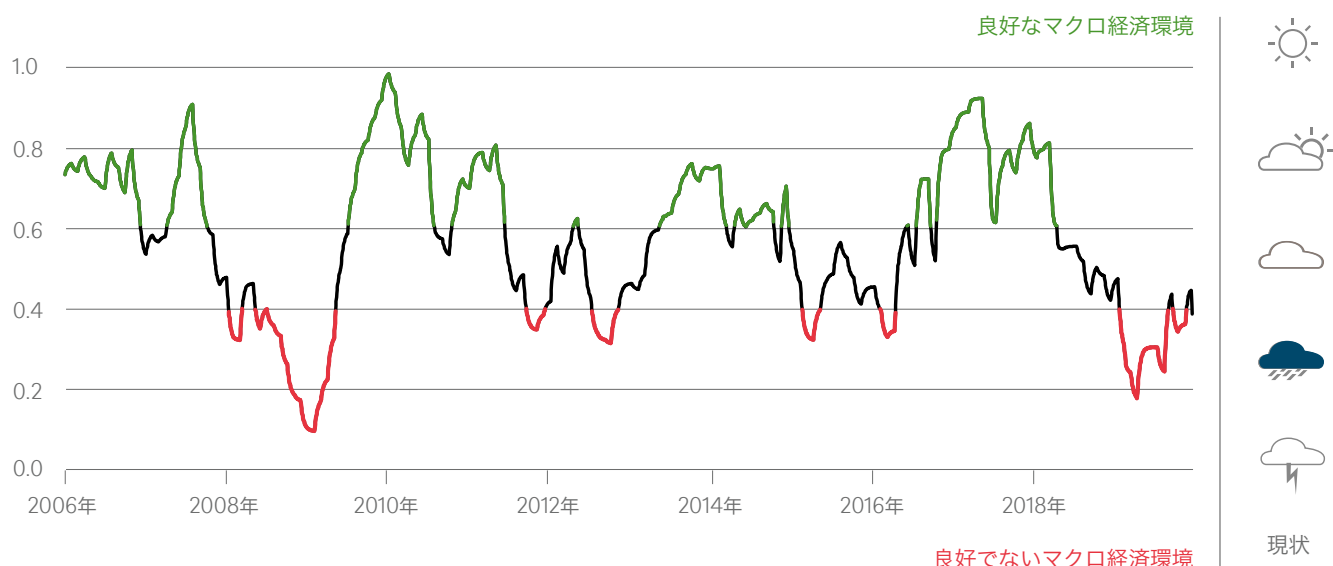


株式	49.5%
米国株式	27%
欧州株式	8.5%
新興国株式	5.5%
グローバル株式	5%
日本株式	3.5%
債券	45%
ユーロ投資適格社債	15%
ユーロ圏ソブリン債	10%
新興国（主要通貨建）債券	7.5%
米国国債	7%
ユーロ・ハイ・イールド社債	3.5%
米国ハイ・イールド社債	2%
オルタナティブ	4%
コモディティ	4%
現金	1.5%

出所：マルチアセット・グループ、DWSインベストメントGmbH、2019年12月2日時点

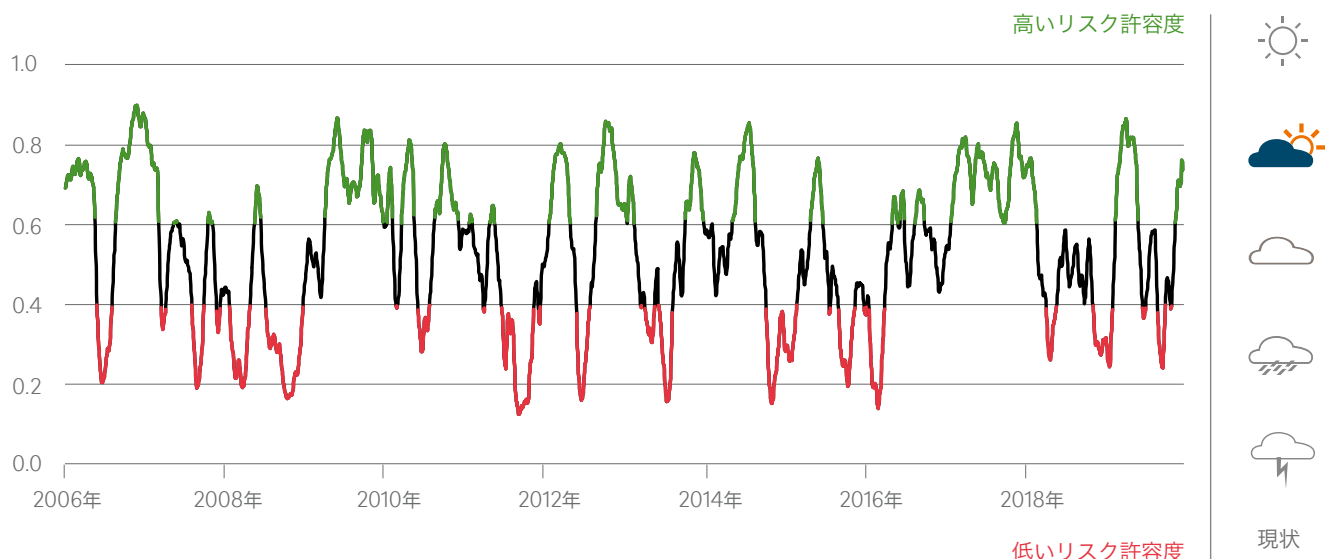
上記アセットアロケーションは、DWSが現時点で考えるユーロ建のバランス型ポートフォリオです。すべてのお客様に適しているものではありません。また、予告なく変更されることがあります。

マクロ経済指標 / マクロ経済指標は広範な経済指標を集約したものです。

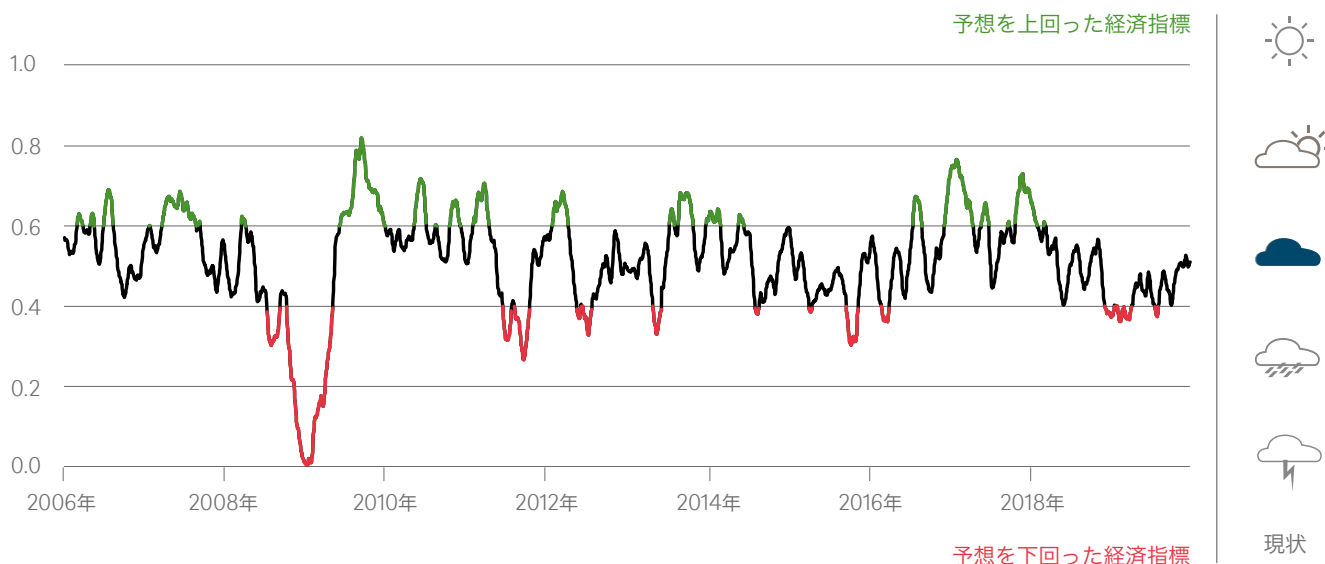


当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSインベストメントGmbHが作成したものをドイツ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイツ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。オルタナティブ投資は投機的になる可能性があり、非流動性、損失の可能性の高さ、不透明性を含む重大なリスクを伴います。オルタナティブ投資はすべてのお客様に適しているものではありません。当資料記載の内容は将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料記載の予測は、2019年12月3日時点のDWSインベストメントGmbHの見解であり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。投資にはリスクが伴います。運用資産額が変動し、損益が発生する場合があります。また、元本が保証されるものではありません。

リスク指標 / リスク指標は金融市場における投資家の足元のリスク許容度を反映したものです。



サプライズ指標 / サプライズ指標は実際の経済指標と事前の市場予想を比べたものです。



出所: DWSインベストメントGmbH、2019年12月3日時点

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSインベストメントGmbHが作成したものをドイツ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイツ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。オルタナティブ投資は投機的になる可能性があり、非流動性、損失の可能性の高さ、不透明性を含む重大なリスクを伴います。オルタナティブ投資はすべてのお客様に適しているものではありません。当資料記載の内容は将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料記載の予測は、2019年12月3日時点のDWSインベストメントGmbHの見解であり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。投資にはリスクが伴います。運用資産額が変動し、損益が発生する場合があります。また、元本が保証されるものではありません。

マクロ経済／安定化の兆し

GDP成長率(対前年比、単位：％)

	2019年(予測)		2020年(予測)
米国	2.2	▼	1.6
ユーロ圏	1.1	▼	0.9
英国	1.2	↗	1.3
日本	0.8	▼	0.2
中国	6.2	▼	5.8
世界	3.1	→	3.1

財政赤字(対GDP比、単位：％)

	2019年(予測)		2020年(予測)
米国	4.4	↗	4.6
ユーロ圏	1.1	→	1.1
英国	2.2	→	2.4
日本	3.2	▼	2.3
中国	4.8	▼	4.2

消費者物価指数(単位：％)

	2019年(予測)		2020年(予測)
米国 ¹	1.9	→	1.9
ユーロ圏	1.3	→	1.3
英国	1.9	↗	2.0
日本	0.8	↗	1.4
中国	2.4	↗	2.5

経常収支(対GDP比、単位：％)

	2019年(予測)		2020年(予測)
米国	-2.5	▼	-2.6
ユーロ圏	3.3	▼	3.2
英国	-4.3	↗	-4.2
日本	3.2	↗	3.4
中国	0.2	▼	0.1

指標金利(単位：％)

	現在値*		2020年12月(予測)
米国	1.50-1.75	▼	1.25-1.50
ユーロ圏	0.00	→	0.00
英国	0.75	→	0.75
日本	0.00	→	0.00
中国	4.35	▼	4.10

商品市況(米ドル建)

	現在値*		2020年12月(予測)
原油(WTI)	56.8	→	54
金	1,471	↗	1,575
銅(LME)	5,812	↗	6,240

* 出所：ブルームバーグ・ファイナンスL.P.、2019年11月14日時点
¹ コアレート、12月個人消費支出(前年同月比)(％)
 予測は2019年11月14日時点の見通しです。
 WTI：ウェスト・テキサス・インターミディエート
 LME：ロンドン金属取引所

当ページ以降の記号表記について

株価指数、為替相場及びオルタナティブ投資：
 矢印は以下の見通しを示します。
 (↗) 堅調な推移、(→) 横ばい傾向、(▼) 下落の可能性

債券：
 ソブリン債の場合、矢印は以下の見通しを示します。
 (↗) 利回り上昇、(→) 横ばい傾向、(▼) 利回り下落
 社債や証券化商品等、新興国債券の場合、矢印は米国国債に対するスプレッド
 (利回り格差、オプション調整後)の見通しを示します。
 (↗) 利回り格差の拡大、(→) 横ばい傾向、(▼) 利回り格差の縮小

矢印の色はロングオンリー戦略でのリターンの見通しを示しています。
 ● ロングオンリーの投資家にとってプラスリターンの可能性
 ● プラスリターンの機会は限定的で、マイナスリターンの可能性もあり
 ● ロングオンリーの投資家にとってマイナスリターンの可能性

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSインベストメント GmbHが作成したものをドイツ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイツ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。当資料記載の内容は将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料記載の予測は、2019年11月14日時点のDWSインベストメント GmbHの見解であり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。

株式／企業収益の改善は間近

	現在値*		2020年12月 (予測)				
			予測値	トータルリターン (予測) ¹	企業利益成長率 (予測)	株価収益率 への影響	配当利回り
米国(S&P500種株価指数)	3,191 ●		3,300	5.3%	6%	-3%	1.9%
欧州(ストックス・ヨーロッパ600指数)	418 ●		420	4.1%	6%	-5%	3.5%
ユーロ圏(ユーロ・ストックス50指数)	3,773 ●		3,770	3.4%	7%	-7%	3.5%
ドイツ(DAX指数) ²	13,408 ●		14,000	4.4%	10%	-9%	3.0%
英国(FTSE100種指数)	7,519 ●		7,500	4.5%	2%	-2%	4.7%
スイス(SMI指数)	10,542 ●		10,450	2.3%	5%	-6%	3.2%
日本(MSCI ジャパン・インデックス)	1,047 ●		1,060	3.7%	4%	-2%	2.5%
MSCI エマージング・マーケット・インデックス(米ドル建)	1,088 ●		1,120	5.8%	9%	-6%	2.9%
MSCI AC アジア(除く日本)インデックス(米ドル建)	674 ●		700	6.4%	9%	-5%	2.5%

* 出所: ブルームバーグ・ファイナンスL.P.、ファクトセット・リサーチ・システムズ、2019年12月16日時点

¹ トータルリターン(予測)は、利回り、配当、キャピタルゲインを含みます。

² トータルリターン・インデックス(配当込)

債券／利回りのレンジは固定化

米国

	現在値*		2020年12月(予測)
米国国債(10年物)	1.82% ●		1.85%
米国地方債 ¹	87% ●		80%
米国投資適格社債	102 bp ●		110 bp
米国ハイ・イールド社債	382 bp ●		400 bp
証券化商品: モーゲージ証券 ²	48 bp ●		47 bp

欧州

	現在値*		2020年12月(予測)
ドイツ国債(10年物)	-0.35% ●		-0.35%
英国国債(10年物)	0.71% ●		0.95%
ユーロ投資適格社債 ³	112 bp ●		90 bp
ユーロ・ハイ・イールド社債 ³	374 bp ●		360 bp
証券化商品: カバードボンド ³	43 bp ●		40 bp
イタリア国債(10年物) ³	168 bp ●		150 bp

* 出所: ブルームバーグ・ファイナンスL.P.、2019年11月14日時点

¹ 10年物米国国債に対する10年物地方債(AAA格)の比率

² ブルームバーグ・バークレイズMBSフォワード・インデックス

³ ドイツ国債に対するスプレッド

アジア太平洋

	現在値*		2020年12月(予測)
日本国債(10年物)	-0.07% ●		-0.10%
アジア社債	265 bp ●		265 bp

世界

	現在値*		2020年12月(予測)
新興国ソブリン債	323 bp ●		320 bp
新興国社債	326 bp ●		320 bp

通貨

	現在値*		2020年12月(予測)
ユーロ(対 米ドル)	1.10 →		1.15
米ドル(対 日本円)	108 →		105
ユーロ(対 英ポンド)	0.86 →		0.89
英ポンド(対 米ドル)	1.29 →		1.29
米ドル(対 中国元)	7.02 →		7.10

予測は2019年11月14日時点の見通しです。

bp=ベーシスポイント

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSインベストメント GmbHが作成したものをドイツ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイツ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。当資料記載の内容は将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料記載の予測は、2019年11月14日時点のDWSインベストメントGmbHの見解であり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。

パフォーマンス / 概要

過去12カ月毎のパフォーマンス

	2014年11月 -2015年11月	2015年11月 -2016年11月	2016年11月 -2017年11月	2017年11月 -2018年11月	2018年11月 -2019年11月
アジア社債	2.7%	5.7%	5.4%	-1.9%	12.5%
DAX指数	14.0%	-6.5%	22.4%	-13.6%	17.6%
新興国ソブリン債	-0.2%	7.0%	10.2%	-5.4%	14.0%
新興国社債	0.0%	8.3%	8.6%	-1.9%	13.4%
ユーロ・ハイ・イールド社債	2.4%	5.8%	8.1%	-3.0%	8.8%
ユーロ投資適格社債	0.6%	3.2%	3.3%	-1.7%	6.5%
ユーロ証券化商品:カバードボンド	1.4%	1.2%	1.0%	-0.3%	3.7%
ユーロ・ストック50指数	10.6%	-10.4%	19.9%	-8.7%	20.0%
FTSE100種指数	-1.9%	11.1%	12.3%	-0.7%	10.1%
ドイツ国債(10年物)	3.2%	2.5%	0.4%	1.6%	5.1%
イタリア国債(10年物)	6.7%	-1.6%	5.0%	-7.3%	17.6%
日本国債(10年物)	1.8%	2.1%	0.3%	0.1%	1.5%
MSCI AC アジア(除く日本)インデックス	-10.6%	7.1%	35.2%	-9.6%	7.8%
MSCI AC ワールド・インデックス	-1.9%	4.3%	25.3%	-0.4%	14.3%
MSCI エマージング・マーケット・インデックス	-17.0%	8.5%	32.8%	-9.1%	7.3%
MSCI ジャパン・インデックス	7.6%	1.7%	24.3%	-6.0%	9.3%
MSCI World Information Technology Index	4.4%	6.1%	38.8%	4.9%	28.9%
S&P500種株価指数	2.7%	8.1%	22.9%	6.3%	16.1%
ストック5・ヨーロッパ600指数	14.5%	-8.1%	16.8%	-4.4%	18.3%
SMI指数	1.3%	-9.2%	22.2%	0.3%	20.0%
米国ハイ・イールド社債	-3.4%	12.1%	9.2%	0.4%	9.7%
米国投資適格社債	0.0%	4.2%	6.0%	-2.8%	15.2%
米国証券化商品:モーゲージ証券	1.7%	1.6%	2.1%	-0.5%	8.0%
米国国債(10年物)	2.0%	0.6%	2.2%	-1.6%	12.3%
英国国債(10年物)	2.9%	5.2%	2.2%	2.0%	6.4%

出所:ブルームバーグ・ファイナンスL.P., 2019年11月30日時点

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSインベストメント GmbHが作成したものをドイツ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイツ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。当資料記載の内容は将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料記載の予測は、2019年11月30日時点のDWSインベストメント GmbHの見解であり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。

会社紹介

DWSについて¹

すべての主要な資産クラスを網羅した商品及び運用ソリューションを通じて、幅広い投資機会へのアクセスを投資家に提供。その運用ソリューションは投資信託から高度にカスタマイズされたポートフォリオの構築まで多岐にわたる

個人投資家及び機関投資家のお客様に、伝統的資産からオルタナティブに至る幅広い資産運用ソリューションを提供

約7,520億ユーロの運用資産残高(2019年9月末)を誇る世界有数の資産運用機関

チーフ・インベストメント・オフィスについて

DWSのグローバル・チーフ・インベストメント・オフィサーであるステファン・クロイツカンプが統括し、DWSの運用プロセスの中心的役割を果たす

経済及び市場に関する統一された見解の策定のため、グローバルな運用体制が有する専門性を集結

グローバル投資見通しであるCIOビューを策定する

ポートフォリオ・マネジメント、調査及び営業チームの連携のための窓口となり、円滑な意思疎通を可能にする

¹ DWSはDWSグループGmbH&Co.KGaA及びその子会社が事業活動を行う上でのブランド名です。DWSの商品やサービスは、契約書、合意書、提案資料または該当商品やサービスの関連書類に明記された法人よりお客様へ提供されます。

※2018年3月、ドイツ・アセット・マネジメントは、欧州、特にドイツにおいて広く認知されている「DWS」を世界共通ブランドとして採用しました。

ご留意事項

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSインベストメントGmbHが作成し、2019年12月17日に発行したものをドイツ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイツ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。当資料記載の情報は、作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。市場や経済に関するデータや過去の運用実績は記載時点のものであり、将来の傾向、数値等を保証もしくは示唆するものではありません。投資にはリスクが伴います。価格変動等により、当初投資元本を割り込むことがあります。

ドイツ・アセット・マネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第359号

加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

ドイツ・アセット・マネジメント株式会社は、DWSグループの日本における拠点であり、投資信託ビジネス・機関投資家向け運用ソリューションの提供における長年の経験、ノウハウ及び実績を有します。グローバルな運用体制と独自の洞察力を駆使した質の高いサービスをご提供するとともに、日本市場の資産運用ニーズに的確にお応えすることを目指します。

